

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300880		
法人名	有限会社セイリュウ		
事業所名	グループホームもみじの森		
所在地	〒036-0242 青森県平川市猿賀石林37-3		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の学校やこども園との交流をしている。 リンゴ狩りを畑に出て体験できる。 定期的に外食を実施している。 入居者の希望に応じ外出や買い物をしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年3月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

盛美園・猿賀公園に隣接し、豊かな自然に囲まれながら過ごすことができる事業所である。理念に「家庭的な雰囲気の中で地域の人とのふれあいを大切にし優しさと思いやりの心で温かみのある生活の場を提供いたします」と掲げ、何よりも利用者との関りを大切にしている。職員は、利用者が出来ることやしたいことを会話や生活の中から見出し、職員みんなで共有し支援している。介護の喜びや難しさに直面しながらも、勉強会や話し合いを重ね、利用者第一を常に考えながら取り組んでいる姿勢がうかがえる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はスタッフルームへ掲示し、朝礼時唱和し共有できている。	理念を事務所内に掲示し、朝礼時に方向性を合わせるために黙読している。また、その理念を日々の利用者との関わりの中で実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の畑の方に時期の野菜などを分けて頂いたり日常的では無いが交流出来ている。	理念にも掲げている通り地域との交流を大切に取組まれている。特に小学校やこども園との交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での場や申し込みの相談に来られたご家族には、例題を上げて支援方法や認知症のことをアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度推進会議を実施し利用者の状況、行事、運営について報告を行い話し合いがされ、意見を頂き改善に努めている。	2ヶ月に1度、定期的実施されており、事業所内での状況報告などを報告されている。また、そのなかで委員から出た意見について必要に応じサービスの質の改善に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議に毎回参加している為、情報交換は適宜行っている。	運営推進会議はもちろんのこと、いろいろな機会を通して情報交換を行い連携を図り、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会の設置。職員会議内で勉強会を実施。夜間以外での玄関の施錠などは行わずケアに取り組んでいる。身体拘束はないが心理的言葉の虐待は100%無いとは言い難い。	職員全体で廃止に向け定期的な研修及び委員会を開催している。また、防犯上の観点から夜間のみ玄関に施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会の設置。職員会議内で勉強会を実施。言葉や態度に気を付けるようスタッフ同士声を掛け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修で触れてはいるが認識は不足している。 入居者様で日常生活自立支援事業を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居説明書に基づき説明を行い理解を得られたうえで入居している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、重要事項説明書に相談や苦情を表せる窓口の記載や説明を随時行っているものの反映し話し合う機会は少ない。	利用者と家族の支援者であることを基本に日々の生活の中で意見や要望を吸い上げ、サービスに活かしている。また、玄関に意見箱の設置をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議、朝夕の申し送り時、日常的に代表取締役、管理者が話し合い意見交換できる場を設けている。	日頃より職員の意見を聞く機会を設け、出た意見や提案などを毎月の会議で検討している。また、日頃の申し送り時には職員の意見に耳を傾けながら意見が出やすい環境づくりに取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、管理者手当はある。 希望の公休や健康診断も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員会議時、園内研修実施している。 又、能力に応じ外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に要望について記入して頂いたり面談等から本人の望みを引き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「私の望み・家族の望み」の書類に記入して頂き話し合いをすることで不安の解消に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって一番必要なサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や、出来る事出来ない事、興味のある事や本人に必要なこと、ストレスは無いかなど観察しながら本人が生活しやすいように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いに気軽に情報交換できるような雰囲気作りを心がけたり、様々な家族関係に配慮したケアを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう入居前のかかりつけ医の受診継続をしたり、入居者様からの希望に添えるよう支援している。	地域社会との関わりを大切にすることから地域で暮らす馴染みの友人等に出来るよう外出支援を行っている。特にこれまで関わりの深いかかりつけ医の受診継続など関係が途切れないように進めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操時間や午後のレクリエーション活動などの余暇時間でもストレスなく生活出来るように職員が関わりながら支援している。又、状況に応じて席替えも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の関わりの中から一人ひとりの思いや、意向の把握に努めている。言葉を発する事が困難な方には表情や仕草で把握できる様職員で話し合い、ケアに取り組んでいる。	利用者の思いや暮らし方の希望や意見などを把握している。その思いを日々のケアサービスに取込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、居宅介護支援の介護支援相談員、病院のソーシャルワーカーからの聞き取りや、主治医意見書、認定調査票等を参考に基本情報を作成し、情報を共有している。又、必要な状況なら職員会議でも話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、健康チェック表、受診ノート、ケアチェック表等で状況を観察・記録し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月毎のケアチェック表でのチェック、施設サービス計画書作成、評価表を基本とし、毎月の職員会議で利用者状況を確認し合い、変化がある時は、施設サービス計画書を作り直している。又、本人からは日常生活の会話から聞き取り、ご家族からは、面会時、電話、手紙で要望を伺っている。	利用者や家族の意見を大切に必要に応じては医療関係機関からの意見をもとに協議を行いながらケアプランを作成している。また、身体状況の変化により適切に見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、ケアチェック表、評価表、受診ノート、必見帳を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望で周辺住民の協力の元、柿や銀杏を収穫したり、ゲームセンターでパチンコを遊技したりとその時々生まれるニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の図書館や地域のお店での買い物利用、慰問等のボランティアの受け入れ、地域の行事参加等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続受診を基本に、状況に応じて、専門医やホームの協力医院への受診を行っている。	入居前のかかりつけ医を基本に家族が納得して頂けるように適切な医療が受けられる体制となっている。また、緊急時等の対応にも適切な医療が行われるように協力医と連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院持は、家族と一緒に主治医やソーシャルワーカーから状況をうかがい、退院期間の報告も受けている。入院中は、面会や電話等で家族、主治医、ソーシャルワーカーと連携を図り状態の報告を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていないため、入居時に、重要事項説明書で説明しそのような場面があった場合の事例を伝え、希望があれば次の受け入れ先の見学や申込みの手続きも家族と一緒にしている。体調変化や重度化した場合は、本人と家族、医療機関と連携を図りながら次の受け入れ先が見つかるまでの対応を検討し、希望に添えるよう支援している。	入居時の希望や意向を踏まえながら、関係機関と連携を図り、十分な説明を行い安心して納得した最期を迎えられるようにしている。また、希望等に合わせ利用者には福祉施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置とAEDの講習を行う。緊急時マニュアルは全職員が周知しているわけではなかった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定と日中想定の方針の避難訓練は業者を交えて行っている。発電機や食料品の準備はできている。地域との協力体制、地震、水害に関しての対応はまだ不十分である。	マニュアルを作成し、年2回、事業所だけではなく地域の協力のもと避難訓練が行われている。また、発生時に直ぐに持ち出しできるように必要品を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、さりげない声掛け、言葉使い、プライバシーの確保に心掛け対応している。職員間でも指導し合っているが忙しさから忘れがちになっている。	家庭的な生活をめざす中でも丁寧な言葉かけに取り組んでいる。また、日頃のサービスの際はその人らしさを尊重し、一人ひとりの性格を理解した上でプライバシーを大切に個別ケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自分らしさ」、「生きがい」等を失わないように日常のコミュニケーションや表情から希望や思いを把握し、自己決定できるように働きかけている。状況に応じて家族の協力を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり自由に過ごせるよう支援している。お手伝いや集団活動等参加したいのか確認の声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿っている衣類を選んだり、洗濯したりしている。理髪店はユニット毎に2カ月に1回出張できていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者から希望を取り入れたり、買い出し、準備、片づけ等を一緒に行っている。食事時間は、BGMを流し、昼食時間は職員も同じメニューの食事を一緒に食している。	家庭的な暮らしをめざし、食材の買い物や調理、食事、後片付け等、個々の力を活かし一緒に行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を健康チェック表に記入し、個々に合った食事形態で提供している。状況に応じて、代替食、お粥食、刻み食、トロミ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、見守りや介助を行っており、歯や歯茎の状態も観察している。就寝前は洗浄剤で義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護計画に基づき介助を行っている。排泄パターンを把握し自立に向けた交換を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを「排泄チェック表」に作成し、分析を行い排泄時間を把握し羞恥心に配慮しながらトイレでの自立した排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動水分補給を促し、消化の良い食品を提供している。医療機関とも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴できるように取り組んでいる。外出時には変更したり、入浴を好まない方には時間をずらす等の対応をしてゆっくり入れるようにしている。	週2回の入浴を基本に職員が入浴日を決めるのではなく、利用者のその日の体調や希望を大切に気持ちよく入浴が出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の習慣がある方等、個々の要求に応じて休息の時間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報、受診ノートを共有し薬の目的や用法の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作り、家事、散歩、買い物など、定期的に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時や気晴らしの為のドライブ、買い物、図書館へ外出している。ご家族と外出する時は身支度を手伝ったり気分よく外出できるよう支援している。	日常的な外出支援に限らず、一人ひとりのその日の希望により短時間でも外出が出来るよう支援に努めている。また、外出をすることによってストレスの発散の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が施設管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をしたり取り次いでいる。手紙のやり取りはほとんど行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快や混乱を招くような事がないよう配慮している。居心地がよく過ごせるよう配慮している。	利用者の活力を引き出すために、その季節に合った装飾となっている。また、食堂から見える景色が四季を感じさせ居心地の良い雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では本人のペースに合わせて過ごしたり、個々にコミュニケーションを取りながら過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は元々使われた物や家族が持って来て下さった物を生かしながら生活できている。	利用者及び家族の希望により居室を馴染みの物で飾り、安心して暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症がある方の施設でもある為、過剰介護のないよう配慮しながら自立生活ができるよう工夫している。		